

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>・全体的に見て、どの項目も中間評価と最終評価が維持か上がっている。学校関係者評価については、取組内容について運営協議会の中でも紹介して欲しいという提言がなされた。</p> <p>・志を高める教育については、職員研修の充実を図っていきたい。</p> <p>・重点目標の「あいさつのレベルアップ」については、年間を通してしっかり取組むことができた。</p>
------------------	---

2 学校教育目標	<p>人との関りを大切にしながら よく学びよく遊ぶ西小っ子 ～ トライ&エラー&チア～</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>Try&Error&Cheer - 気楽にやってみよう！ -</p> <p>①思いやりのある児童の育成を目指す。 ②活気があり進んで取り組む児童の育成を目指す。 ③やる気を持って学び、互いに高めあう児童の育成を目指す。</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

重点取組	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○児童がわかる、できると思う授業の充実	○「学習中、自分の考えを書いたり話したりすることができる」と回答する児童85%以上。 ○「教科書をすらすら読むことができる」と回答する児童85%以上。	・1時間の中で書いたり話したりする場を設定する(自力解決、交流、振り返りなど)。その際、短文でまとめたり、別の表現で置き換えたりするなど工夫した指導を行う。 ・「有明西小っ子学びのスタイル」チェック週間や「家庭学習がばらばら週間」を学期に1回設定する。 ・国語、算数の「知識・技能」の定着に向けた取組や読書の推奨を行う。 ・1時間の中で音読する場面を確実に設定する。	B	○「学習中、自分の考えを書いたり話したりすることができる」と答えた児童は89%と上回っているが、「自分の考えを話すことができる」と答えた児童は、64%と下回っている。どの児童も自分の考えを話すことができるように発問や場の工夫などの手だてを考へて、2学期から取り組んでいく。 ○「教科書をすらすら読むことができる」と答えた児童は、96%で目標を上回った。これは、授業中に音読する時間を設定したり、読ませ方を工夫したりして取り組んだ成果である。	A	・「学習中、自分の考えを書いたり話したりすることができる」と答えた児童は88%、「教科書をすらすら読むことができる」と答えた児童は92%と目標を上回った。「自分の考えを話すことができる」と答えた児童は78%と下回ったが、2学期からは、自分の考えを話すことができるように発問や場の工夫などの手だてをとったことで、14%向上した。 ・「有明西小っ子学びのスタイル」チェック週間や「家庭学習がばらばら週間」を学期に1回取り組み、集計した結果を校内掲示することで、児童と担任の実践意欲や反省につなげることができた。	A	・学力テスト等の結果を資料として提示してほしい。	・学力向上対策コーディネーター
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「自分や友達の良いところをみつけて、友達と仲良くすることができている」と回答する児童85%以上。	・学校行事、縦割り活動、委員会活動等の中で、他者への「思いやり」を意識した取組を行う。 ・特別な教科道徳等を関連させた人権集会や総合的な学習の時間と関連させた人権・同和教育を実施する。	B	・1学期の児童アンケート結果による成果指標は達成している。 ・縦割り活動は上級生を中心に楽しんで活動が出来ている。 ・平和集会やほかほかカードの取組を通して、相手を思いやり、認め合う事ができ、協力して異学年との関わりが出来ている。	A	・「友達と仲良くすることができる」に肯定的に回答した児童は96.5%「縦割り活動に協力して活動できた」に肯定的に答えた児童は98.3%だった。リーダーとして活動できる上級生が増え、異学年交流を更に楽しむことができていた。 ・人権集会やほかほかカードの取組を通して、他者への思いやりや協力的な態度の育成につなげることができた。	A	・にしきえ祭りや6年生送る会の発表でダンスなど色々な発表があり、皆生き生きとしていた。集落への出前発表会の再開はどうだろうか。	・集団活動部
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていると回答した教員85%以上	・職員連絡会の際に、気になる児童とその対策について話し合う機会を設け、いじめの未然防止・早期発見・早期対応・再発防止に努める。 ・心のお天気や生活アンケート等を定期的に実施し、児童の様子を把握し、いじめの早期発見・早期対応に努め、情報共有を行う。 ・教育相談週間を設定して、児童の理解を深める。	B	・職員連絡会で、気になる児童についての情報を共有することや、心のお天気を定期的に実施することで、児童の様子を把握し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応・再発防止につなげた。 ・6月に全学年教育相談週間を設けた。その中で気になる情報があった際には、他職員に情報を共有し、学校全体でいじめ防止に取り組んだ。 ・2学期以降にも教育相談週間を実施する予定であり、児童の理解を深める機会としたい。	A	・「いじめ防止策について組織的対応ができている」に「よくあてはまる」あてはまる回答した教員は100%であり、目標値を上回った。気になる児童については全職員で情報を共有し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応・再発防止につなげた。 ・2学期以降にも、教育相談週間を設定し、担任と児童が個別に話し合いをする機会を設けることで、児童の理解を深めることができた。また、心のお天気を定期的に実施し、気になる児童については個別で対応をした。	B	・いじめや不登校が比較的少なく、アンケートなどからも楽しく学校生活を送っている。 ・自分がしたこと、言ったことをいじめと認識していない子がいる。	・教育相談担当 ・保体部
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・行事や学習において、目標をもたせて活動させ、活動後には振り返りを行い、児童の成長や頑張りを認める場を設ける。 ・上・下学年では、2分の1成人式や卒業式、ゲストティーチャーによる講話の取り組みにおいて自分の将来について考えさせる。また、下学年では、どんな自分になりたいのかを道徳や学活において考える。	B	・行事や学習では、めあてをもたせて活動させ、振り返りを行うことで、教師が児童を称賛しているの、児童生徒の回答は、94%と上回った。 ・将来の夢や目標をもつような授業などの実践をした学年が少なかったが、肯定的な回答をした児童は92%と上回った。2学期以降は、取り組みに携げた活動や行事などを行うことで、さらに夢や目標を広く深めていく。	B	・2学期以降も、行事や学習では、めあてをもたせて、活動後には振り返りを行い、必ず教師が児童の頑張りを成長を称賛しているが、児童の回答は87%と下回った。この結果から、教師のほめ方やほめるタイミングを見直す必要がある。 ・将来の夢や目標をもつような授業などの実践を上学年は行うことができた。「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童が、83%と上回った。	B	・親子のふれあいや親子登校など独自に良い取り組みをたくさんされており、とても良いと感じた。	・教務主任 ・特別活動主任(田代)
●健康・体づくり	「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外の休み時間や放課後等で体を動かしている児童生徒70%以上	・全校で外遊びを推奨する声かけを行う。 ・体力作り週間を設定し、児童が運動する機会をつくる。 ・スポーツチャレンジを推奨し、各学年の定着化を図る。	B	・「猛暑が続いており、熱中症のリスクがあるため外遊びを推奨するに至らなかった。気温が落ち着いてきた段階で、マラソン週間、秋のスポーツ祭り等のイベントを企画する予定である。 ・スポーツチャレンジについても同様。	A	・3学期からの教師も外に出て子どもと一緒に遊ぶ取り組みの効果もあり、児童用アンケートでも「休み時間外で遊んでいる、だいたい遊んでいる」と回答した児童が79%に達した。 ・スポーツチャレンジの実施には至らなかったが、体力作り週間やスポーツ祭り等を企画し、児童が体を動かす機会を設けることができた。	A	・外遊びの推奨はとても良い。ぜひ続けてほしい。 ・コロナやインフルエンザが落ち着き、子どもたちが外で大いに遊んで体力をつけることを期待する。	・保体部
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日を毎週金曜日、第3水曜日と明確に設定し、意識して実践できるような取組を行う。 ・学期毎に学校運営や業務に関する振り返りを行い、業務の改善、課題の早期解決に努める。	B	・年度当初は65%の職員で時間外在校時間が多かったが、毎週金曜日と第3水曜日を定時退勤日に設定したこと6月は37%に減り、9月は45時間を越える職員がいなかった。 ・職員会議で職員の時間外在校時間を示し、業務の改善を呼びかけていることで超過時間を減らしたいという自覚が出てきているが、超過時間が減っている職員とそうでない職員がいる。このことから、各自の取り組みは十分であるとは言えない。	B	・大きな行事があるときには、時間外在校時間が多くなった。業務改善の視点を盛り込んだ計画を今後していく必要がある。 ・職員へのアンケートから75%の職員が業務改善を行うことができたと回答している。しかし、25%の職員はあまりできていないと回答しており、時間外在校時間の削減に取り組もうとする意識の差が出てきた。	B	・学校現場はどれも大変だと思うが、やはり時間外等の削減はもっと取り組むべきである。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
重点取組	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
◎志を高める教育	◎児童が目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動(キャリアパスポートの推進)	○キャリアパスポートでの「1年の振り返り」で「できた」「よくなった」と回答した児童85%以上	・各種体験活動では、児童に活動の見通しをもたせ、学びの振り返りを行う。 ・キャリア教育を意識した授業実践を年間指導計画のもとに行う。	B	・農業体験や運動会などの行事を行う前には、各自のめあてをもたせて取り組ませ、活動後は振り返りを行った。 ・6年では、「志を高める」授業を行い、自分の将来の夢や目標について考えたり伝えたりすることができた。他学年も見通しをもって今後実践していきたい。	A	・修学旅行やにしきまつり、体験活動を行う前には、各自のめあてをもたせて取り組ませて、活動後には、学びの振り返りを行ってきた。「できた」「よくなった」と回答した児童が96%と上回った。	B	・具体的な取り組みが十分に伝えられていないのでよく理解できない。	・教務 ・総合的な学習主任
	○あいさつレベルアップ	○「笑顔であいさつ さわやか西小っ子」の合い言葉のもと、「自分からすすんで」「笑顔で」「大きな声で」あいさつができた児童80%を目指す。	・年間の生活のめあてにあいさつを位置づけ、具体的なあいさつのレベル「自分からすすんで」「笑顔で」「大きな声で」を児童に示し、あいさつへの意識化を図る。	A	・児童への生活アンケートの結果によると、さわやかなあいさつができていると回答した児童の割合は約90%であり、目標を充分達成できている。後期もあいさつの意識化を継続していく。	A	・年間の生活目標としてあいさつの意識づけを行った結果、あいさつができているという児童の割合は、9割を超える結果となり、目標を達成することができた。次年度もあいさつの声が響く学校を目指していく。	B	・学校ではあいさつをしているようであるが、地域の方にはよく知っている人以外には消極的な印象を受ける。 ・地域の方から「最近はいいさつせんねえ」との声が聞こえます。元気のよい朝のあいさつを人より先に実践してほしい。 ・地域でのあいさつが以前よりなくなったと感じる。	・生徒指導部

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・年間通して縦割り活動(縦割りグループ遊び、縦割り掃除)を実施し、異学年との交流および相手を思いやる心の育成につながった。来年度も継続して実施したい。</p> <p>・相手よりも先に元気に気持ちのよいあいさつができる児童が増加した。地域でもあいさつするようにあいさつの輪を広げていく。外遊びの推進については児童会活動をいかして取り組ませたい。</p> <p>・児童が主体的に地域と関わっていくことができるように場と機会を保障し、それぞれの活動のねらいを意識した取り組みを実践していきたい。</p>
--------------------	---